

海女

海中から貝や海藻などを収穫する女性の潜り手である海女は、伊勢志摩地域において何世紀もの間、重要な役目を果たしてきました。幼いころから素潜りの訓練を積む海女は、呼吸装置を使わず長時間水中にとどまり海底の魚介類を収穫します。

海女の最も重要な収穫物にアワビがあります。海女は、この貴重な海産資源を保全し、自分たちの暮らしを守るための厳しいルールに従っています。産卵期（通常9月15日から12月31日）とその前後の長い期間中、アワビの収穫は禁じられており、また、海女は特別な計測器を使用して、獲ったアワビの大きさが10.6cmを超えていることを確認します。

海女は伝統的にセーマンとドーマンと呼ばれる海女を仕事に見守ってくれる二つのシンボルで衣装を飾ります。セーマンは星の形で、海女が安全に戻ることを象徴して一筆書きで描かれています。格子状のドーマンは、悪霊を見張る多くの目を表しています。特に恐れられている悪霊はトモカヅキというドッペルゲンガーのような化け物で、海女の姿で現れ、油断した海女を危険に誘うと言われています。